

マラソンと国民性の関連性

Relationship between Marathon and Nationality

1K04A227

指導教員

主査 加藤清忠先生

三浦 唯

副査 矢島忠明先生

1. はじめに

スポーツにはそれぞれ向いている性格がある。その性格を国民性として当てはめると、国によって向いている種目とそうでない種目が出てくるはずである。本論文は、日本人のマラソンへの適正を考え、どの程度日本人がマラソンに向いているのかを考えるものである。

2. 目的

本論文では、日本の国民性と、アメリカなどの国民性を比較しながら、陸上競技の特にマラソンに関して考察していく。その結果から、競技スポーツとして、生涯スポーツとして、また健康スポーツとして、どの程度日本人がマラソンに適しているかを明らかにする。

3. 国民性とは

性格特性論の概念である、ビッグファイブを用いて考える。これを社会心理の領域にまで拡張し、国民性のビッグファイブとして、以下の5つの尺度から国民性を分析する。

4. マラソンに適している性格とは

日本とアメリカ、韓国のオリンピックでのメダル数と、マラソンランナーと一般人の性格を検査した16PFの結果から考察する。

5. 国民性分析

- ・ 内向性－外向性：国民性は歴史と風土に起因する要素が大きいため、日本の建国の歴史を手掛かりに内向性、外向性を分析する。また、

アメリカの内向性、外向性も建国の歴史から分析する。

- ・ 愛着性－分離性：日本の集団主義社会を分析し、そこから愛着性－分離性を考える。また、アメリカに代表される個人主義ができた経緯を分析し、愛着性－分離性を考える。
- ・ 統制性－自然性：統制性はいかに生まれるのかを日本の歴史、社会構造の視点から分析し、アメリカと比較する。
- ・ 情動性－非情動性：日本人の自殺率の高さと、日本独自の文化である死の美学を手掛かりに、また日本の「和」はなぜ生まれたのかを考えることから、情動性－非情動性を分析する。
- ・ 遊戯性－現実性：日本人の細やかで繊細な芸術作品は世界に誇ることのできるものである。その芸術作品を世界の芸術作品を比較することで、日本人の遊戯性、現実性を分析する。

6. 結果・考察

- ・ 内向性－外向性：日本人は内向性である。マラソンとの適正でみると、マラソンは自分自身に関心を強く向ける種目であるため、内向性は適している。ランニングを好きになる要素は非常に高い。
- ・ 愛着性－分離性：日本人は愛着性である。マラソンとの適正でみると、個人が独立している分離性のほうが適している。しかし愛着性であっても中間集団に属して行うならば適正は分離性に引けを取らない。また、日本人はエクササイズとしてのマラソンに高い適正を持っている。

- ・ 統制性－自然性：日本人は統制性である。だが放っておくと自然性になる。マラソンとの適正でみると、マラソンには統制性が必要不可欠である。よって、マラソンができる集団に属し、統制性が生まれる環境に身を置くことが必要となる。
- ・ 情動性－非情動性：日本人は情動性である。マラソンとの適正でみると、マラソンには非情動性のほうが適している。冷静に状況分析しレースができるからである。しかし、日本人は陸上競技の種目全体の中では、マラソンに最も適正があると言える。よって、日本人はマラソンに対して、陸上競技のなかでは最も高い適正を持っていると言える。
- ・ 遊戯性－現実性：日本人の遊戯性、現実性とマラソンの適正でみると、マラソンには両方の

人材が必要であり、適正は判断しにくい。日本人の遊戯性、現実性もどちらに偏っているとは言えないため、遊戯性の人であっても現実性のひとであっても適正はある。

7. まとめ

以上の結果を総合してまとめると、日本人はマラソンに対して非常に高い適正を持っている。特に、エクササイズとして自分の健康のために行うランニングには高い適正を持っていると考えられる。このエクササイズとしてのランニングに高い適正を持っていることを広め、競技人口が増加すれば、必然的に競技力向上が見えてくる。トップを目指す場合でも、日本人はマラソンに対してかなりの適正がある方である。